

特集 「自治会」について考えてみよう！

自治会は、「住みよい地域にしたい」という住民の思いを実現するために、住民自らが協力して活動する集まりです。燕市内には、現在200を超える自治会があります。日ごろ、当たり前のように過ごしている暮らしの中にも、自治会の活動によって支えられていることがあります。



私たちの自治会ではこんな取り組みをしています！

自治会の活動は、自治会ごとにさまざまな取り組みがあります。住民同士の交流や、回覧板の電子化、地域の防災など、市内の3つの自治会の取り組みをご紹介します。

Case 1
子どもたちの存在が地域の絆を深める
水道町三丁目自治会

水道町三丁目は、もともとある農村集落と近年できた新興住宅地があり、約300世帯からなる自治会です。移住してくる人も多く、地域内の住民同士の繋がりをづくり出すことが自治会の課題となっていました。

この地域には、古くから受け継がれてきた神楽があります。神楽は「家内安全」への願いと、厄払いに町内の一軒一軒を回る行事です。5年前から休止状態となっていたものを復活させようと、地元奉賛会の有志が昨年の春から準備に着手。7月の披露に向けて、小学生に参加を募り、子どもたちが練習に参加することになりました。

地域の人たちが大勢集まるこの日に、自治会として何かできればと子ども会と一緒に「お楽しみ交流会」を企画。イベントは、自治会の活動拠点でもある集会所と隣接する防災倉庫のある広場で行いました。神楽の行事が終わると、交流会がスタート。「親爺バンド」の生演奏やくじ引きのほか、キッチンカーも集結しました。



- ① 神楽を披露した地域の子どもたち
- ② 「親爺バンド」をはじめ大人もイベントを盛り上げた
- ③ イベント看板制作は小池中学校総合文化部が協力



◀水道町三丁目自治会の皆さん（右から自治会長の高山廣栄さん、神楽奉賛会代表の高山雄作さん、自治会会計の平原孝典さん）

水道町三丁目自治会の皆さんにお話を伺いました！

Q. 交流会の開催で、どんな効果がありましたか？

A. 集落部と住宅街の住民が集まり、イベントの参加や片付けを通して交流が深まりました。やはり子どもたちが楽しんでくれると、大人もうれしいですね。子どもは地域の絆を深めてくれる存在です。災害時も含めて、お互いに助け合える関係を築いていければと思います。

もしも自治会の支えがなかったら

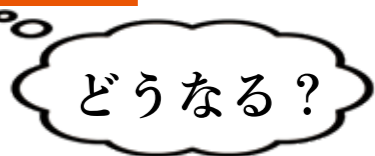
ごみステーションの管理などの環境美化をはじめ、子どもたちや高齢者の見守り、防犯灯の故障連絡、防災訓練など、自治会の活動は多岐にわたります。

住民同士の交流を深めるため、イベントや親睦会などを実施している自治会もあります。

もしも、その自治会の活動がなかったら、あなたの地域はどうなるかを想像してみましょう。

災害時に生じた個人や家族だけでは対処できない問題は、地域の人たちと助け合って対処することも必要になるかもしれません。

日ごろの活動などを通じて顔馴染みになり、非常時に助け合える関係を築くことが大切です。



地域の環境美化

ごみステーションの管理や一斉清掃などがないと、清潔で住みやすかった環境がなくなるかもしれません。



子どもや高齢者の見守り

地域の人たちと繋がりが希薄だと、地域内の見守りも難しく、暮らすにも不安がつきまとうかもしれません。



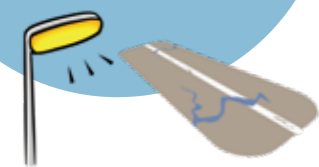
災害時の助け合い

地震や台風など災害時に頼りになるのは近所の人。自治会の活動を通して、日頃から地域で結びつきがないと、万が一のときに困るかもしれません。



地域の声を行政へ

道路の危険箇所や防犯灯の故障など、自治会から行政への要望がなかったら、住みづらい生活環境になっているかもしれません。



▶クリーンデー燕の様子

「災害時における自治会の役割」は重要です！



兵庫県立大学大学院 准教授 澤田雅浩さん

燕市の防災リーダー研修などで講師を務める澤田さん ▶



●災害時は地域の支え合いが必要です！
風水害の場合、みんなで声をかけて安全な場所に移動するためにご近所の皆さんの協力が欠かせません。地震の場合は、もし住宅が壊れたりしていたら、中にいる人を速やかに助け出せるのは周囲の人々です。そして、避難所での生活が必要となった場合、その環境をより良いものにするために自治会の皆さんの力が重要となります。

●災害時は自治会の人たちの視点が大事です！
安否確認や避難所での生活環境の整備、ボランティアの受け入れなどは、地域をよく知り、みんなで協力できる体制を普段から整えている自治会が担うことができます。また、自治会の人々の目線で被害を受けた人の困りごとを拾い上げることで、よりよい支援へとつなげることもできます。その意味で、公助との接点としても重要な役割があると思います。

●顔見知りになることで防災に繋がります！
災害時の助け合いは顔見知り同士のほうが当然スムーズに行きます。防災訓練は定期的に行うことで、経験のある人を増やすことになり、地域の防災力向上に繋がります。しかし、防災にあまり関心を持っていない人にも何かしらの関わりを持ってもらうためには、お祭りや一斉清掃などの地域行事で、防災の役割を皆さんにお伝えし、「こんなことも災害時の被害軽減に繋がるのだ」と気づいてもらうことも大切です。

●能登半島地震の被災地での助け合い
普段のコミュニケーションがしっかりしている地域では、孤立状態で外部からの支援が届かない中でも、助け合って避難生活をしていたり、建物の倒壊で生き埋めになった人の救助救出が行われていたりしています。地域のこと、そして地域の人々のことをよく知っていたため、そういった対応を自分たちで行うという共助（助け合い）が各所で行われていました。

住み良い地域づくりのためには、住民一人ひとりの協力が欠かせません。地域のことを自分ごととして考え、できることから少しずつ自治会の活動に参加してみませんか。

自治会に加入したいときはどこに相談すればいいの？

自治会に加入する場合は、お住まいの地域の自治会長に問合せください。お住まいの自治会や自治会長の連絡先がわからない場合は、市役所に問合せください。

●問合せ
総務課 総務係 ☎ 0256・77・8312

Case 3 **自分たちの地域は自分たちで守る**
分水新町水道町自主防災会

分水新町一丁目から四丁目と、分水水道町の自治会では、自主防災組織をつくり、地域住民がお互いに協力して防災活動に取り組んでいます。

昨年10月に避難所となる分水公民館で実施した自主防災訓練には、17人が参加。防災意識を高め、非常時に備えるため、非常食や災害用携帯トイレ、給水袋を参加者に配付しました。参加者からは、「今まで危機感を持っていなかったが備えは大切」「今後定期的な訓練したほうが良い」といった声が寄せられたそうです。



▲応急救護などの講習を受ける参加者

Q. 今後の課題は何ですか？
A. 地域内の世帯状況の把握や役員の担い手不足などです。若い人たちが自治会や自主防災組織に加わり、SNSを活用した取り組みなどで防災力を高めることも、必要になってくると思います。

分水新町四丁目自治会長の古泉さんにお話を伺いました！



▶昨年11月に開催した住民説明会

吉田鴻巣自治会では、自治会や地域の情報を住民にすばやく伝えるため、閲覧板の電子化を検討してきました。当初は自治会のホームページを検証しましたが、昨年8月に新聞記事で紹介された秋葉町三丁目自治会の「公式LINE」を活用したデジタル閲覧板の取り組みを知り、方針を転換。電子化の準備を進め、今年2月から電子閲覧板の運用を始めました。

Case 2 **自治会情報をデジタル化で便利に**
吉田鴻巣自治会

Q. なぜ電子閲覧板を導入することにしましたのですか？
A. 速やかな情報共有や後から見返せること、それに電子閲覧板アプリの既読確認機能が高齢者の見守りになり、災害時は連絡手段、安否確認ができるなどいざというときの備えの一つとなるからです。

Q. 住民の皆さんから反対の声はありましたか？
A. 住民意向調査で6割以上の人が電子閲覧板を使ってみたいとの回答しており、運用開始は田滑にできました。

吉田鴻巣自治会長の塚原さんにお話を伺いました！

吉田鴻巣自治会の電子化を進める

電子閲覧板で住みやすい鴻巣に

電子閲覧板とは

- 紙の資料を電子データ化
- インターネット上にアップロード
- 登録者に知らせて、見てもらう

注意：今使っているバインダーの閲覧板を「閲覧板」と表現します。

電子閲覧板導入による期待できる効果

- 自治会や地域の情報がいち早く届く
知ることで自治会や地域への関心の高まり→自治会活動の活性化
- 電子閲覧板のトーク機能は新しいコミュニケーション
手軽に連絡できて、近所づきあいが広がる→近隣交流の活性化
- 電子閲覧板の既読確認機能で未読のままは、異常を知らせるサイン確認に行くことで、万一の事態を素早く察知→高齢者世帯の見守り
- 災害発生時の通信手段・安否確認に
災害時を想定し安否確認の訓練→災害への備え

電子閲覧板の導入にご理解をお願いします

▲昨年11月に開催した説明会の資料（抜粋）

Q. 運用にあたっての課題はありますか？
A. 一つはスマホに不慣れた人への対応です。今後、電子閲覧板の登録や操作方法の説明会を予定しています。もう一つは、アパートの入居者へのアプローチです。アパートは紙の閲覧板が回らず、閲覧情報を掲示板で見ただけのところもあり、自治会や地域の情報を共有するために、登録してほしいと思います。

Q. 電子閲覧板への期待は？
A. 多くの人が登録していただき、速やかな情報共有で安心して暮らせる吉田鴻巣にしていきたいと思っています。

このままだと自治会の存続が...

ライフスタイルの変化や少子高齢化などで住民同士の繋がりが希薄化する中、自治会は人と人との繋がりをつくる大切な役割を果たしています。

しかし、現在多くの自治会では役員の担い手不足や地域活動に参加する人の減少などが課題となっています。

Q. 自治会役員の担い手は？

昨年2月に燕市が実施した自治会長へのアンケートで自治会役員の担い手について質問したところ、72.4%の自治会が「担い手が不足している」と回答しています。

回答	割合
不足している	72.4%
不足していない	26.8%
未記入	0.8%

N=127

Q. 自治会やまちづくり協議会、NPO、ボランティア組織などの活動への参加状況は？

また、昨年10月に実施した「燕市まちづくり市民アンケート」で自治会やまちづくり協議会、NPO、ボランティア組織などの活動への参加状況について市民に質問したところ、66.0%の人が「参加したことがない」と回答しています。

回答	割合
参加したことがない	66.0%
ときどき参加している	24.3%
積極的に参加している	5.2%
不明	3.8%

N=915